

2025年5月21日

会 員 各 位

新 潟 県 医 師 会

百日咳含有ワクチン（3種混合ワクチン）に関する資料のご案内

現在、国内で百日咳が大流行しています。新生児や乳児は、ワクチンを接種していない、あるいは、必要な回数を接種していないため、百日咳に罹患すると重症化しやすく、適切な全身管理と治療を行っても救命困難なことがあります。一方で、家族がワクチンを接種することで、本人だけでなく、新生児や乳児を百日咳から守ることができます。

この度、新潟県医師会では、下記の通り、百日咳含有ワクチン（3種混合ワクチン）に関する①妊婦さん用、②ご家族用の資料を作成しました。③日本小児科学会の資料も合わせてご案内いたします。患者さんへの説明の際にご活用いただけましたら幸いです。

①百日咳から赤ちゃんを守るために妊婦さんに知ってほしいこと

➤生後2か月未満の児にはワクチンを接種することができないため、妊婦さんに百日咳含有ワクチンを接種することで移行抗体によりワクチン接種できない児を守ることが可能です。

②百日咳から赤ちゃんを守るためにご家族ができること

- 現在の県内の百日咳の流行では、小学校高学年から中学生およびその保護者世代の患者数が多くなっています。
- ご家族が百日咳含有ワクチンを接種することで、本人のみならず、新生児や乳児を百日咳から守ることができます。

③百日咳ワクチン接種推奨ポスター（日本小児科学会 予防接種・感染症対策委員会）

➤日本小児科学会は、①小学校入学前の1年間、②11－12歳での3種混合ワクチンの追加接種を推奨しています。

なお、全国的な百日咳の大流行により3種混合ワクチンの接種希望者が急増し、2025年4月以降の需要は平時の約5倍に達し、供給量を大幅に上回る状況となっています。製薬メーカーによる供給は、従来の需要に見合った水準を維持しているものの、急速な増産は困難であり、2025年5月より限定出荷の措置が講じられています。そのため、このような状況を踏まえて、厚生労働省より、医療機関等及び卸売販売業者に対しての周知・依頼情報が発出されましたので、下記にご案内いたします。

●百日せきの流行状況等を踏まえた、定期の予防接種の実施及び沈降精製百日せきジフテリア破傷風混合ワクチンの安定供給に係る対応について

また、予防接種推進専門協議会から、このようなワクチン不足の状況下における優先すべき接種対象者の考え方が公開されましたので、下記にご案内いたします。ご参照ください。

●百日咳流行に伴うワクチン接種に関するお願い